

どんな職業か

タイル工は、建物の床・壁などに用いられるタイルを張り付け、表面を仕上げ、れんが工は、建物の壁やへい、暖炉、花壇、広場、歩道などに用いられるれんがを積み、表面を仕上げる。
 タイル張りの仕事はれんが積みから発展した技術を用いているため、両方の作業を併せて行える人も多く、兼業している場合もある。

タイル張りの作業は、まずタイルを張る床・壁などの下地を清掃し、タイル張りの位置を示す墨を出し、水系を張って基準を決めてから割付図に従ってタイルの割り付けを行う。

次に、セメントと砂と水を練り合わせたモルタルを下地面に規定の厚さに塗りつけて、タイルを所定の位置に目地幅通りに張り付ける。張り付けはヴィブラートと称する振動工具やコテの柄などによりタイルをモルタルに密着させ表面を揃え、目地部の余分なモルタルをかき落とす。モルタルがある程度硬化した時期（タイル張り後1日以上経過）を見計らって目地詰めを行い、目地モルタル硬化後、表面を水洗いなどにより清掃する。

一方、れんが積みの作業は、れんがを積む基礎の上面を清掃してからモルタルを敷き、れんがを所定の割り付けに従って積んでいく。仕上げには、れんがそのものを化粧として見せる化粧積みと、れんがの上にモルタル塗りなどを施す塗下積みがあり、化粧積みの場合には、れんがとれんがの間のモルタルをれんが表面より下げる目地掘りの作業を行って、新たにモルタルをすき間なく詰めていく目地工程が加わる。最後にれんがに付着しているモルタルなどをはけではらい落として仕上げる。

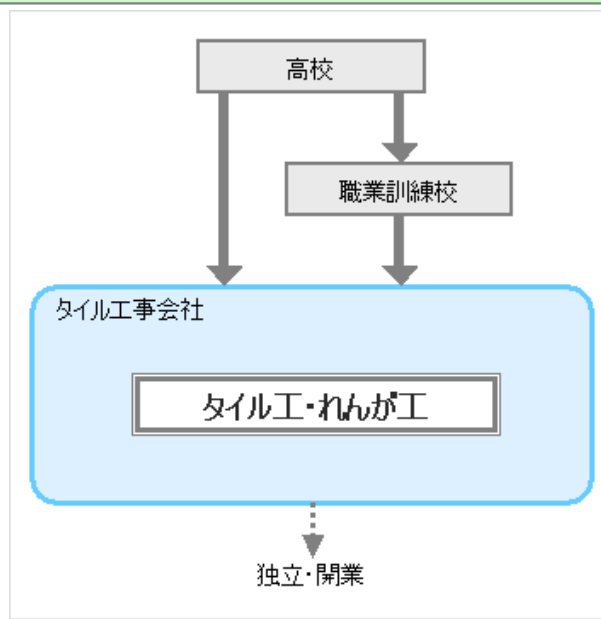
就くには

タイル工になるために特に必要とされる学歴、資格はない。高校卒業後すぐにタイル工事会社へ就職し、熟練技能者のもとで見習いから始めて次第に高度な仕事を習得していくケースが多い。職業訓練校で半年～1年ぐらいタイル工としての訓練を受けてから入職する方が、入職後の技術の習得が早い。一人前のタイル工になるには、入職後最低3～4年はかかるとされており、腕が上げれば独立することもできる。

空間判断力や形態知覚、それに加えて指先・手腕の器用さなどが求められる。また、建築現場の作業が中心となるため、身体が健康で、根気強い性格であることも必要である。

れんが工の入職条件や求められる適性などはタイル工とほぼ同じであるが、れんが工は需要が少ないため職業訓練校でのコースはなく、実務で技術を身に付けなければならない。

厚生労働省が実施する技能検定に「タイル張り技能士」、「れんが積み技能士」があり、資格を取得すると技術力の証明として評価される。



労働条件の特徴

タイル工事会社は、中小企業が多いが、数人の技能者を抱えて自営するケースも見られる。働く場所は、ビル、マンション、店舗及び住宅などの現場である。

タイル工は入職してから一人前になるまでの間は月給、技術が一定の水準に達してからは施工面積に応じたいわゆる出来高給に変わるというケースが多い（れんが工の賃金形態もタイル工と同じである）。

労働時間については、午前8時始業、午後5時終業というケースが一般的であるが、工事現場の作業環境、工期、施工時期などの関係で一定しない場合もある。工程の都合で、残業や深夜・休日の出勤などもあるが、出来高制のため、能率よく仕事をして早く仕事を切り上げることも可能である。

タイルは仕上げ材料の主力となっており、マンションの外壁など、より美しく高級感のある建築物が求められる中で需要が伸びている。一方、れんが積みの需要は減少しており、タイル工や建築ブロック工、左官など関連のある仕事と兼業するケースが増えると考えられる。

参考情報

- 関連団体** 社団法人 全国タイル業協会
<http://www.tile-net.com/>
 社団法人 日本タイル煉瓦工事工業会
<http://www.nittaren.or.jp/>

関連資格 タイル張り技能士 れんが積み技能士 建築施工管理技士